

# 2017 年度 センター試験 数学ⅡB (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：2 題必答・2 題選択				
難易度の変化（対昨年）	○ 難化	○ やや難化	● 変化なし	○ やや易化	○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし	○ 減少		
出題分野の変化	○ あり	● なし			
出題形式の変化	○ あり	● なし			
新傾向の問題	○ あり	● なし			
<p><b>総評</b>                      難易度に大きな変化は見られなかったが、計算量が全体的に増加。出題テーマとしては典型的な問題なので解きやすいが、文字式の計算が増え、数字ではなくアルファベットをマークさせる問題が全体として増加したため、文字の扱いに慣れていないと高得点は狙えない。数列で対数計算させたり、対数関数で内分点を求めさせるなど、複数の分野にまたがる出題が見られたが、特に難しい問題はなかった。</p>					

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	[1] 三角関数 [2] 指数・対数関数	30 点	[1] 2 倍角を用いて変形して、和と積の値から解と係数の関係を用いる問題。絶対値の大小関係に注目して答えを求める必要がある。 [2] 内分点から関係式を求めさせることは目新しいが、計算力があれば問題なく解ける。
第 2 問	微分法・積分法	30 点	接線と放物線で囲まれた面積を求める典型的な問題である。ただし、解答欄に合うように数式を変形したり、一見数字が入るように見える欄にアルファベットが入る箇所があるなど、戸惑った受験生も多かっただろう。
第 3 問 選択	数列	20 点	単純な等比数列の問題であるが、解答欄にアルファベットが入ったり、対数計算が出てきたりと、計算に自信が無いと不安になる部分も多い。確かな計算力が必要な問題である。
第 4 問 選択	ベクトル	20 点	座標平面上の正六角形について、交点や垂心の座標を求める問題である。点の座標とベクトルの成分の関係を正確に把握し、適切にベクトルの式が立てられれば、後は 2 通りに表わして成分を比較したり、内積を用いて垂直条件を処理すればよい。典型的な問題である。
第 5 問 選択	確率分布と統計的な推測	20 点	省略